

第 15 回委員会会議結果概要（案）

会 議 結 果 要 旨	
第 15 回 会 議	<p>○第 14 回委員会の開催結果概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。 <p>○第 4 回勉強会の開催結果概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし <p>○アンケート調査結果（景観・親水性）</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p><u>アンケート全体に関して</u></p> <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート本編の回答と自由意見について、数でみるか、パーセンテージでみるか、同じ単位でみないと不平等が起こってしまう。 ・項目により母数が異なるため、パーセンテージのウェイトが違ってくる。意見というのはウェイトが大事である。 <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回答者に現地を観ていただき、頭の中で描いたイメージと実際に観た時のイメージにどの程度ギャップがあるのか、検証する必要がある。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しいかもしれないが、アンケート回答者に実物を観ていただきたい。今後の広報にあたり伝え方の練習みたいなものをやってみた方がよい。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果のまとめという形で三番瀬再生会議へ報告することも考慮してほしい。 <p><u>問 1 に関して</u></p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回答者は、市川塩浜と三番瀬のイメージがダブっているのではないか。その辺を少し考える必要があると思う。 <p><u>問 2 に関して</u></p> <p><松崎委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問 2 で「まだ訪れたことがない」とした人が 42.2%いる。なぜだろう。→自由記述と問 3 の来訪しない理由が参考になるのではないかという旨、事務局回答。 <p><u>問 3 に関して</u></p> <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問 3 の結果をみると、マイナスイメージが相当多い。街づくり全てについて頑張らないといけない。

会議結果要旨	
第 15 回 会 議	<p><u>問4に関して</u></p> <p><榊山委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問4について、居住区間別の属性による検討をしているか。 →そのような解析はまだ行っていない旨、事務局回答。 <p><u>問5・6・7・8に関して</u></p> <p><田草川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然的な」「防犯上安全そうな」という項目の評価がそれほど高くない。 低い項目については、今後対応すべきだと思う。 <p><三橋委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市川海岸塩浜地区を知る・知らない別の評価で、平成18年度は“知らない人”の評価が高い。ちょっと気になる。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母数が小さいので1人違っても大きく響いてくる。母数による信頼限界の幅を考えておく必要がある。 <p><u>その他の内容、自由意見に関して</u></p> <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由意見に関して、特に重要な項目についてパーセンテージの評価をどうするか、まとめ方を少し工夫してほしい。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由記述の中に凶がある意見もある。公開できるか。 →HPへの掲載を検討する旨、事務局回答。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用へ分類された意見の中から、自然との接点に係る意見を抜き出した方がいいと思う。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な立場から、各委員が自由意見のまとめ方を事務局へ提案してほしい。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由意見を整理する際、主観が入らないように気をつけてほしい。また、問いと関連して自由意見があるので、問いに対するものとして自由意見を整理すること。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由意見について、現地へ行ったことがある人ない人で分類して整理した方がよい。 <p>○公開調査・現地見学会の開催状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。

	会議結果要旨
第15回会議	<p>○工事後1年の検証・評価（防護・環境・利用） [主な意見及び対応]</p> <p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防護の目標達成基準により地域の防災を評価してしまうと、一般市民は実態の防災の目安を誤解してしまうのではないかと。達成率により海岸の護岸の機能を判断してしまっはいけないと思う。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な地域の防護の確保というところ、一般の方はもう少し広い概念をもっている気がする。一般の人との接点の概念で三番瀬再生会議や地域などに伝達することをお願いしたい。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証基準は出来高のような評価になっている。工事の過渡期での評価をどうするかというところで難しい問題がある。今は、ある一つの評価方法を設定したものであると、このように受け止めるのが大事である。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質測定結果があるが、環境基準からみた場合どうなのか。 <p><佐藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これらのデータだけでは環境基準をクリアしているかどうかというのは判断できないと思う。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質の一つの基準として使われているCODあるいはBODも入れておく必要があると思うが、今は過渡期で工事の過程なので、その辺の評価は長期的にやらないといけない。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質の測定項目はまずはこれでいいと思う。ただ、将来的にはCODやBODも測定する必要があるかもしれないし、生き物が一つの指標になってくるのであまり数字だけにこだわらなくてもいいのかなと思う。 ・水の物理条件的なイベントというのは、主に水温とDOが生物に影響を与える。 ・生物の情報が充実してきた。トサカギンポは人気がありスター性のある生物だと思う。4種類のフジツボについて特性を整理するとよい。アラムシロガイがよく観察されるようになってきたのはいい傾向だと思う。ウネナシトマヤガイについては議論もあったが、発見できてよかったと思う。 <p><後藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂の堆積に関して専門家にデータを渡して、評価委員会でも分析してほしい。

会議結果要旨	
第15回会議	<p><竹川委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カキにしてもフジツボにしても活発に成長している。この海域はとにかく成長力が早く、それだけの力を持った海だと思う。 ウネナシトマヤガイの件について、本当にそこで着定して幼生からずっと大きくなったのであれば、もっと増えてくる感じがするが、今後それは見守っていく必要があると思う。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・護岸高 A P +5.4m にしておけば当面大丈夫だよというのなら、それは 100%。5.4m では危ないのだよという考え方が強ければ、それは 75.2% ではなくてむしろ 0% である。そのような見方をしていけないと防災にはならないので、その点を皆で議論して固めるべきである。 <p><清野委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の大型化や海面上昇により、設計基準が通用しなくなってきており、どのように海岸の防護を考えるかというのは概念が大きく変わらと思う。防災の告知の仕方、街の設計の仕方は今までどおりであるはずがないと考える。 <p><榊山委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この委員会で検討することと、市など地方自治体で行うことは区別して考えなければいけない。自治体でソフト面の対応を行わないと、この委員会で全て行うのはたぶん無理で役割が違うと思う。 ・高潮災害防止への指標の値は、75.2% ではなくて 0% だと思う。目標達成基準はあくまでも工事の進捗率で、機能面からみると達成率は 0% だと言わざるを得ない。 <p><工藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいまいな数字は出さない方がいいと思う。 <p><歌代委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の者にとってみれば、とりあえず 5.4m を整備してほしい。護岸をいじった場合、生物がいなくなると心配した人もいたが、モニタリングの資料をみると着実に生物も増えてきているので、安心して護岸整備を進めてほしい。 <p><倉阪委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かに 75.2% というのは工事の進捗状況でしかないが、一応、過去に議論をしてこの数字ができたという経緯はおさえる必要があると思う。 <p><遠藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風の場合、上陸したところの潮位が問題になる。気圧が 1 hPa 下がると、潮位が 1 cm 上がる。ハリケーン・カトリーナも一番大きな問題は潮位だった。

	会議結果要旨
第15回会議	<ul style="list-style-type: none"> ・海底地形の変化についてだが、護岸構造を変えたので、一般論としては海底地形が護岸構造に馴染むような方向に動いていく。安定していくには非常に長い時間がかかる。 <p>＜榊山委員＞</p> <p>(当日持参の海底地形の変化に関する資料をパワーポイントにて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料により、地形は一定傾向では変化していないことと、この大きな浸食は最近の半年で大きく浸食されたことがわかった。地形変化は何年間も重ねて見ていかないと全体的な傾向がなかなか見えてこない。 <p>＜遠藤委員＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的にみて全体の動きはどうなっていて、その動きが護岸とどのような関係があるのか検討していこうと考えている。 <p>○平成20年度実施計画（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が不足したことから、議論なし。 <p>○傍聴者からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートというのは、設問と前に与えた情報との関連が大きいと思う。配布したアンケートも公開してほしい。 ・潮間帯生物の定着に関する検証結果において、中潮帯と低潮帯のマガキの着生面積（施工前）が逆ではないか。現在は低潮帯の方が多い、なぜ施工前は低潮帯の方が少ないのか。 ・ウネナシトマヤガイが確認されたとのことだが、調査方法や資料の作成方法に疑問がある。 ・防護については、前面の護岸にこだわらず、先行して背後のマウンドを整備するなど全体を見渡して考えた方がよい。護岸は三番瀬の環境を大切にするという観点から、いろいろ検討しながら進めていくべきである。